

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達療育園HAGUMI 2くみ			
○保護者評価実施期間	2025年 12月 1日		～	2026年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	33名	(回答者数)	30名
○従業者評価実施期間	2025年 12月 1日		～	2026年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数)	5名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 3日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用者一人ひとりに合わせた支援方法について職員間での共有、協力を行っている。	利用者ごとの特性などを理解し、ご家庭のニーズに合わせて支援方法を試行錯誤している。	園や学校、ご家庭との情報共有を行い、それぞれの環境下での支援方法を可能な限り統一していく。
2	職員の経験、長所を活かしながら利用者が楽しみとなる活動提案および実施を行っている。	活動項目を選んで利用される方もいるため、内容の工夫や改善するための意見を取り入れたり、SNSでの発信にめがけている。	人気となった活動を揃えていたり、利用者ご家族の意見など聞き取りを行う。
3	他店舗との連携を取りながら、柔軟な受け入れを行っている。	利用者により長い期間を通所して頂けるように店舗間での情報共有、移行支援を行っている。	店舗間での空き状況や時期ごとでの変動を踏まえて、計画的な新規受け入れ、移行となるよう案内する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域や外部機関との交流や活動の機会が少ない。	情報入手や活動参加の機会および時間が確保しにくい。	研修や学習会など地域主体の活動に目を向け、参加を検討していく。
2	より個別支援が必要とされる利用者へのアプローチや送迎面等の行き届かなさがある。	職員の配置人数によって可能な対応が限られている。	様々なニーズに対応できるよう余裕のある人数配置を図る。
3	支援室内でのスペース分け、午睡環境の確保が難しい。	スペース分けや防音対策となる設備が不足している。 午睡が必要な児童の割合が少ない。	まずは午睡不要となった児童の過ごし方を工夫する必要がある。